

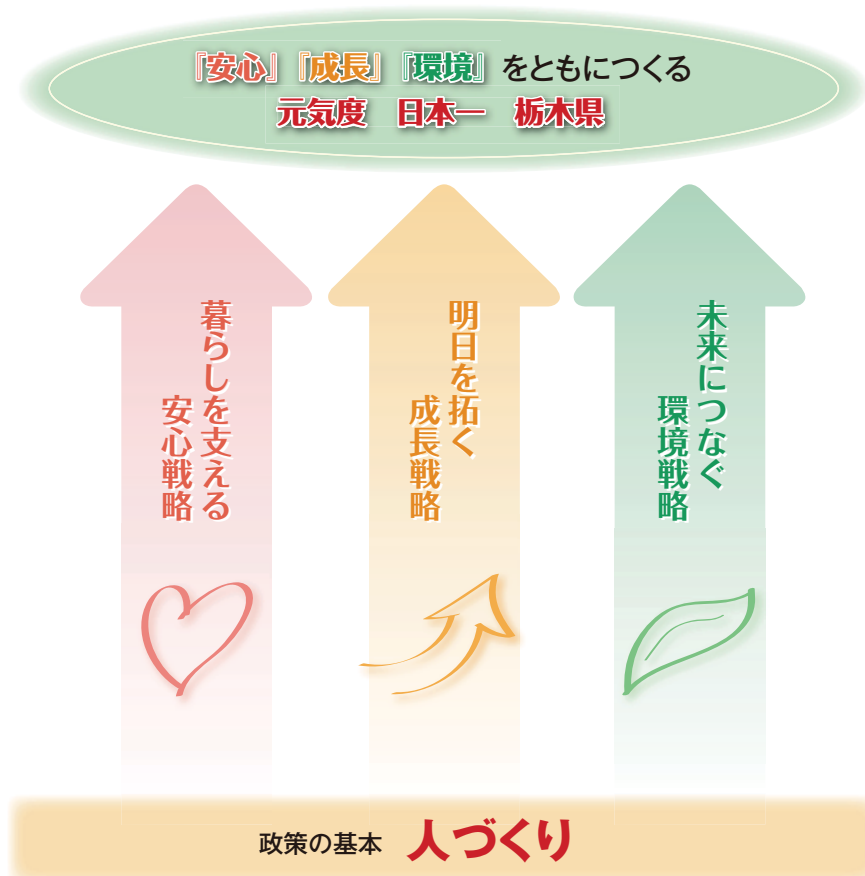
資料 4 とちぎづくり戦略

とちぎづくり戦略は、時代の潮流や本県の特徴などを踏まえながら、重要度や優先度に基づく選択と集中による施策の重点化を図り、将来像である「安心」「成長」「環境」をともにつくる、元気度 日本一 栃木県をより確実に、より効果的に実現していくための戦略です。

この戦略は、とちぎづくりの原動力となる「人づくり」を政策の基本に据えながら、「暮らしを支える安心戦略」、「明日を拓く成長戦略」及び「未来につなぐ環境戦略」の3つの重点戦略から構成されています。

戦略の土台となる「人づくり」においては、子ども世代、若者世代、大人世代、シルバー世代というライフステージに応じて、一人ひとりの能力を高め、自らの夢を実現していくための「人はぐくむ」視点と、培われた能力を広め、絆を結ぶことによって、新たな活力を生み出すための「人を活かす」の2つの視点に立って、とちぎの「人づくり」を進めていきます。

また、3つの重点戦略においては、「人づくり」を基盤に、プロジェクトの着実な推進を通して、将来像の実現を図っていきます。



資料5 ネットワーク型コンパクトシティ

本市が目指す都市空間形成の理念

ネットワーク型 コンパクトシティ

連携・集約型都市

「星座」が形づくられた都市



本市を取り巻くさまざまな問題

- 少子・超高齢社会、人口減少時代の到来
- 地球環境問題の深刻化、高度成長期に整備した公共資本ストックの老朽化
- 都市の顔である中心市街地の活力の低下 など

★ 輝く星と星 (= 拠点と拠点)

★ 星々を結ぶ (= 軸の形成)

30年、50年先を見据えた、望ましい都市の形成に向けて

土地利用の適正化と拠点化の促進により、都市の「コンパクト化(集約化)」を図るとともに、拠点間における機能連携・補完、他圏域との広域的連携のための軸を形成・強化するなど、「ネットワーク化(連携)」を促進し、本市の都市の成り立ちを踏まえた、これからの人口規模・構造や都市活動に見合った都市の姿である、「ネットワーク型コンパクトシティ(連携・集約型都市)」の形成を目指します。

土地利用の適正化

… 都市的機能と自然環境との調和を目指した適正な土地利用

拠点化の促進

… それぞれの拠点における機能・役割分担の明確化と拠点規模の適正化、都市機能の質や機能性の向上(中心市街地、産業・観光の拠点、地域における既存の拠点など)

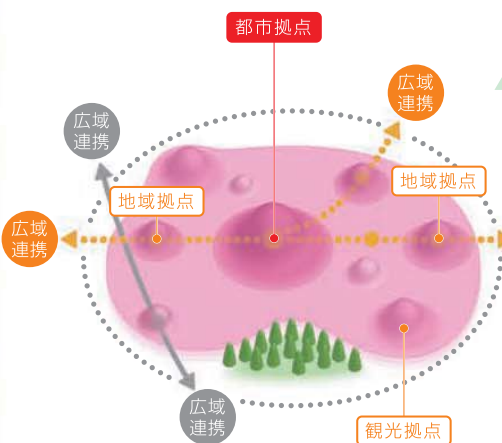
ネットワーク化の促進

… 拠点間における機能連携・補完、他圏域との広域的連携のための軸の形成・強化(幹線道路、公共交通機関、大量輸送機関、高速交通基盤など)

【 ネットワーク型コンパクトシティのイメージ 】

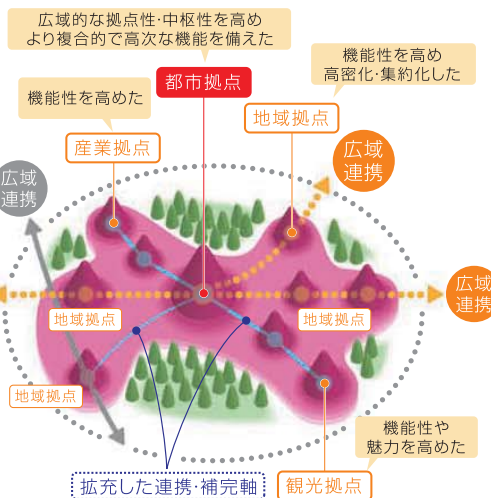
現在の都市の姿のイメージ

特徴やさかい目のはっきりしない
うすく広がった都市



将来の都市の姿のイメージ

高い機能性とアメニティが共生した
メリハリのある都市



出典：宇都宮市 「第5次宇都宮市総合計画」(平成20年3月)概要版

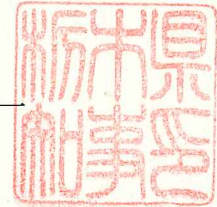
資料6 要 望 書

〔 栃 木 県
宇 都 宮 市 〕

総政第83号
平成27年1月7日

国立大学法人宇都宮大学長 進村武男 様

栃木県知事 福田富一



地方創生に向けた国立大学法人宇都宮大学の充実強化に関する要望書

栃木県政の推進につきましては、日頃から特段の御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

我が国は、急速な少子高齢化と人口減少というかつて経験したことの無い大きな課題に直面しており、本県においても、若者が本県に定住するための就業機会の創出や、結婚や子育てなど安心して暮らせる社会づくり、また、女性や高齢者の力が十分に発揮できる環境づくりなどに向けて、従来の枠にとらわれず果敢に取り組んでいくことが必要であると考えております。

そのような中、このたび貴学において構想されている「地域デザイン科学部」(仮称)は、地域の様々な課題を解決するため、コミュニティ、都市建築、社会環境の専門性に加え、国際性や多様な分析力を備え、かつ本県の現状を総合的、俯瞰的に捉えることのできる人材の育成を目指すものであり、誠に時宜を得たものであります。

さらに、大学の学部学科の充実と魅力向上は、多様な人材を呼び込み、育成することで、地域の活力向上へとつながり、地方創生の観点からも大変重要でありますので、今回の新学部構想を受け、県内外の多くの若者が貴学において学び、卒業後には地域に定着して活躍することを期待し、本構想を全面的に支持するものであります。

また、教育の実施に当たっては、地域の課題解決能力の向上を図るための内容となるよう、実践的な演習の場の提供など、多様な連携・協力を行って参りたいと考えており、貴学と本県による新たな地域づくりの取組が、地域の課題解決のモデルケースとなることを大いに期待いたします。

貴学におかれては、県内唯一の国立大学として、これまで多くの地域を支える優秀な人材を輩出し、農学・工学・教育等の各分野において多大な御協力をいただいているところであります。引き続き地域貢献に御尽力いただくとともに、今回の新学部構想が早期に実現されることを強く要望いたします。

官政審第407-1号
平成27年1月14日

国立大学法人宇都宮大学長
進村 武男 様

宇都宮市長 佐藤 栄
(総合政策部 政策審議室扱)



宇都宮市の振興強化に関する要望書

日頃から、本市振興に対する様々なご協力に感謝申し上げます。

さて、本市におきまして地域創生への取組は最重要課題であり、持続可能な地域振興を多角的に担える人材確保が重要かつ喫緊の課題であると認識しています。

このたび、宇都宮大学において構想されている地域デザイン科学部（仮称）の設置目的は、まさに本市の地域創生を推進する上で待望の学部・学科構想であります。

本市も超高齢化・人口減少・災害・地域環境問題などに直面する中、持続可能な魅力ある地域づくりに取り組んでおりますが、宇都宮大学が、新学部構想にありますコミュニティ、都市建築、社会基盤の専門性に加え国際性や多様な分析力を備え、かつ本市の現状を総合的に俯瞰できる素養を持った人材を輩出され、本市行政・経済界等に還元されることは、本市にとりましても是非早期にお取り組みいただきたく、本構想を全面的に支持いたします。また、教育の実施に当たっては、可能な限り必要な連携・協力をし、て参る所存です。

更に、本市と貴学による新しい地域づくりの取組が国内の他の自治体が抱える地域振興策のモデルケースとなるものと大きな期待を寄せるものであります。

つきましては、これまでにも県内唯一の国立大学として学長をはじめ農学・工学・教育・国際の各分野において多くのご協力をいただいているところですが、本市へのご貢献を一層積極的にお進めいただくとともに、新学部構想の早期実現を強く要望します。

末筆ではありますが、宇都宮大学のますますのご発展をご祈念申し上げます。